大正七年二月五日發行

婦人と子ども

第十八卷
第二號

フレーベル會

婦人と子ども　第十八卷第二號　目次

園丁雜感……倉橋惣三
本眞劔……土川五郎
リズムに就て……
ぶらんこ……
亞米利加の保育界の現況……
幼稚園兒童の貨幣と色彩に對する知識に就て……大西義衞
彥根幼稚園沿革大要……
雜　錄……
「眞向き」と「横向き」……菅原敬造

二月常會

一、二月九日(第二土曜日)午後一時卅分より

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

一、講演

米國の婦人と子供

東京高等師範學校附屬小學校主事　佐々木吉三郎君

○來聽隨意

二月　フレーベル會

顧問高島平三郎先生

コドモ

子供繪雜誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覽になつてゐる間に物事を覺えお行儀がよくなること不思議な位です。

本誌の四大特色

まじめで教育的なこと
繪が叮嚀で美麗なこと
お話が易しく面白いこと
片假名のみで讀易いこと

□定價一册十二錢
□郵稅五厘
□六册郵稅共六十九錢
□十二册郵稅共一圓三十一錢
□總て前金の事

合本定價
各集郵稅共五十錢

東京市小石川區林町五十七
コドモ社
電話番町六一八
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月第一集號より
同大正三年十二月第二集號まで
大正四年第一集號より
同大正四年六月第三集號まで
大正四年第七集號より
同大正五年第十一集號まで
大正五年六月第一集號より

第十八卷第二號

園丁雜感

2

○

人間の偉大さを知るものゝみが、人間を教育することの偉大さを知り得る。

○

人間に關する淺薄卑俗なる解釋、人間に關する無知と無感激。これ程教育上有害なるものはない。凡庸主義は、いつでも魔睡劑である。教育に於ては殊にそうである。世にこれ程有毒なるものはない。

○

自分に於て、人間の偉大さを信じ得るものは、最も幸福である。古今の偉人天才に於て、人間の偉大さを見出し得るものは、其の次に幸福なる人である。其の人は、人間がどこ迄偉大であり得るかを事實によつて證明せられて、それによつて絶えず感激を與へられて、人間に對する事實に基く信念と感動とを以て人間を教育することが出來る。

○

人間の偉大は、必ずしも完全と同意義ではない。常に完全をのみ求むるものは、人間の中に完全を見出し得ないのみならず、人間の中に偉大さをも見出し得ないかも知れない。どうせ人間の偉大さは不均等な、非中庸な中にある。それでいゝ。小さい微溫的な弱々しい完全程偉大でないものはない。

○

子供を偉大なものに拵へ上げようといふのではない。此の子供が偉大なものになることを信じて教育するのである

○

此の子が日蓮になるかも知れない。此の子がベートーベンになるのかも知れない。私は驚き後ずさりして其の子供を見る。其の時私の目は、日蓮やベートーベンに於て見て知つて居る人間の偉大さを以て子供を見て居るのである。私が之等の偉大なる人間に就て少しも知らなかつたなら、斯く迄積極的な見方を以て、此の子供達を見ることは出來なかつたであろう。

私は心理學によつて子供を知り、教育學によつて子供の教育法を學ぶ他に、絶えず人間の偉大さを知らなければならない。絶えず心に其の感激を湛えて居なければならない。そうでない時、私の目は子供に於て凡庸だけを見るものとなるであらう。（倉橋生）

本眞劍（二）

倉橋惣三

六

教育の最普通なる誤謬は教育の目的が直に兒童の目的と一致すると考へることである。しかも教育の目的と兒童の目的とは決して一致して居るものではない。教育は兒童を賢くしようとする。兒童は決して賢くならうなどとは思つて居ない。教育は兒童を善人にしようとする。兒童は決してそんな望みを持つて居ない。兒童は遊びの面白からんことを求める。お噺の面白からんことを求める。否、もつと嚴密には面白いといふことさへ求めて居ない。面白いといふのは結果である。兒童の沒頭して居ることは遊びそのものである。傾聽して居るものはお噺そのものである。その他に何も求めても考へても居ない。つまり、教育の目的は遠い——現在とは離れたことである。それに對して兒童の目的は現在にある。教育の目的は現在が持ち來すべき結果である。間接である。それに對して兒童の目的は現在のことそれ自身である。直接である。

教育が自分の間接目的を兒童も直に理解する筈だと思ふのは大いなる誤解である。その上に、此の間接目的の故を以て、屢々兒童の直接目的を無視するのは教育の甚しき亂暴である。しかも此の誤解が常に當然として行はれ、此の亂暴がいつも平氣で行はれる。而して、教育といふ恐ろしい名のもとに兒童の直接目的を蹈みにぢつて仕舞ふ。之れが、教育が兒童の本眞劍を失はせる大きな危險の一つである。——

一時一事、一事一我の木眞劍は、たゞ自己の目的に向つてのみなし得る。頼まれて出來るものでもなければ、强ゐられて出來るものでもない。本眞劍は事に忠なると共に自己に忠なることであるその自己の目的を蹈みにじられて居る處で、何時本眞劍を經驗し得る機會があらう。

七

教育の間接目的が、尙ほ適切にいへば教育の目的の間接性が、奪ひ去るものは兒童の直接目的のみではない。同時に教育者からも其の目的の直接性を奪ひ去ることが往々ある。これは教育の亂暴といふよりも寧ろ悲劇といふものである。

見るからに不熱心な、無生氣な教育者はいふ迄もない。熱心に見られ、又自らも熱心と意識して居る教育者の中に、案外、眞の意味の本眞劍といへない人が隨分澤山ある。その人は、餘りに結果主義者であつて、現在の爲に現在を貴重することを知らない。又その人は、餘りに醒めたる義務の遂行者であつて、興味にさそわれてゆく眞純なる稚氣を有しない。兒童に理解させる技倆はもつて居るが。自らは何等の感興をもち得ないお噺の話し手。兒童に歌はせることばかり考へて、自分では唱ふことの出來ない唱歌の先生、これ等は皆此の種類に屬する人々である。否寧ろ大抵の教師といふ教師が多少とも此の共通の危險に近づいて居る。

扨て此の危險は、教育者にとつて悲しい不幸であることはいふまでもない。しかも、其の不幸は斯かる人々に始終接觸し、教導せられて居る兒童にも必ず惡い影響を與へずには居ない。すなはち兒童は斯ういふ教育者から知識を教へられ、業を課せられると共に、恐ろしい不眞劍を見せつけられ、又傳染させられる。或る目ざとい兒童は教育者の此の不眞劍を見ぬいて、輕侮の感を懷く。或るおとなしい兒童達は、無意識の中に、自分を此の不眞劍に順應させる。どちらにしても、いつの

間にか不眞劍な兒童にさせられることは一つである。

八

兒童の直接目的を無視するといふ亂暴も、教科そのものに沒頭的興味を有し得ないといふことも兒童の年少なる故に、教科のたわいなき故に、幼兒教育に於て一層起り易いことである。幼兒は其の目的が一層直接的で、間接的目的に就て到底理解することが出來ない程に直接的興味の子である。或は目的といふ意志的な言葉が用ゐられない程に興味の子である。しかも幼弱なる幼兒の精神は、容易に自分以外の勢力に抑えられ又引づられる。そこに幼兒の本眞劍を害ひ易い二重の危險があるのである。幼兒生活の內容、それから撰び來つて幼兒教育の手段とする處のものは、其の單純さに於て教育者の興味をさそひ難きものである。そこに教育者の不眞劍が起り易い。

九

幼兒の周圍が多過ぎる。しかも亂雜に多過ぎる。朝の鈴が鳴る。それを第一の驚きとして、次から次へと、不秩序な——教育者は勝手に秩序正しいと獨りぎめをして居るが、幼兒には何の秩序も感じられない——仕事、或は遊戯と名づけられる仕事が與へられる。まるで追つかけられて居る樣である。その上に友達からの氣まぐれな刺戟が、忙しい誘惑を與へて、心をあれからこれへと、これからあれへと引つぱつてゆく。こういふ幼稚園に於て、一時一事の本眞劍に入ることは殆んど六かしいことゝ言はざるを得ない。

幼兒の監視が利きすぎる。先生の目が、園長さんの目が、幼稚園といふ場所それ自身の大きな目が、幼兒にとつては始終自分を見て居る目である自分を見て居る目には自分を見せ度くなる。人に自分を見せる時には、先づ自分で自分を見る。時には自分を見る目に、自分を隱そうとすることもある。しかも、自分を人に隱くして居る時には却

つて自分で自分をよく見て居る。こういふ幼稚園では、一事一我の本眞劍が保持され難いといはなければならない。

しかも我等は、どうしても、何を置いても、幼兒の本眞劍を維持し、又發達させなければならない。

十

あけぼの

紅(くれなゐ)細くたなびける
雲とならばやあけぼのの
　雲とならばや

やみを出でては光ある
空とならばやあけぼのの
　空とならばや

春の光を彩(いろど)れる
水とならばやあけぼのの
　水とならばや

鳩に履まれてやわらかき
草とならばやあけぼのの
　草とならばや

――藤村詩集より――

リズムについて

麹町小學校長　土川五郎

リズムなどといふと如何にも輸入品の樣で、我國には新らしい感じがする。併し天地の開けたる時から東西の別なく到る所にリズムは存在して居る。リズムについて次の詞がある。

詩の父は音樂なり、音樂の父はリズムなり、リズムの父は神なり。

云ひかへて見れば神又は自然はリズムを生み、リズムは音樂を生むと云ふ事で、自然は完全な節奏をかなで古代の神秘の詩を唄ひつゝ廻つて居る、自然のリズムは海にも陸にも、地の上にも亦地の下にて働いて居るのである。

リズムは人の心を動かし筋肉を働かしむるものである。彼の太鼓を叩いたり、笛を吹いたり、樂器により、樂隊によつて、これを聞いて居る小供をして我しらず手を動かさしめ足を蹈ましめ頸を振らしめる。其子供がリズムの中の人となれば踊りもし跳ねもする。

幼兒はリズムをよく理解するものである。何となればリズムは自然から生れて來たものであるからである。幼兒はよく理解するが故によく踊るのである、よく跳ねるのである。リズムは幼兒の筋肉を振動する力を有つて居る、しかも愉快な感情を與ふるものである。

リズムは自然の原動力である。而して極めて規則正しいものである、この大なる力のあるリズムから起る動作は從つて規則正しいことと、筋肉を自然に動かすが故に其動作も無理のない極めて自然な動作となる、然もそれが愉快な感情を惹起す

のである。

リズムによつて導かれた動作は自由と抑制によつて得べきもので、決してふしだらな動作や、又窮屈な束縛せられる樣な運動は起らないのである、自由の內に抑制があり、抑制の內に自由がある、しかもそれが人工的でない、自然的な所に實に尊い所があると思ふ。

又リズム的動作は強き努力を要せずして大多數の筋肉に作業を分配するものであつて、それと同時に又徐々に作業量を蓄積するものである、これは六ヶ敷い理論の樣に聞えるが、皆さんがリズムに合せて動作を實驗して見ると、リズムの節々に起る蓄積も運動も明らかに了解せらるゝ事である。

此の如くリズムは偉大の力を持つて居るのであるが、こういふ事は今初めて發見されたのではない。

フレーベル氏はリズム的動作について次の樣に語つた。吾々教育上から律動的の働作を取去つた時は卽ち吾々自身が教育家としての資格を失ひ、それと同時に幼兒(保育さるべき者)としての資格を失ふものである。

又多くの我儘者や下品なもの卽ち不行儀な幼兒の生活動作行爲はリズム的動作によつて洗ひ去ることが出來る、リズム的動作は幼兒を從順にし中庸を得しめ圓滿にし且强固にするものであると。

實にフレーベルの卓識は今更の樣に驚くべきものである。又こういふ事も云つた、リズムは自然を理解し藝術や音樂や詩などが啓發さるゝものであると。又プラトーは、リズムは國民として最も大切なもので遵法と服從の精神が生み出されると。

こゝに至つてリズムが如何に愉快なもので身體的に計りでなく、精神的に大なる功果ある事が理解さるゝのである。

リズムの生んだ音樂は實に此の功果を一層大な

らしむるもので、古代から音樂は存在し漸次に發達して今日に至つたのであるが、音樂が幼兒の心靈を通じて身體に及ぼす其力の偉大なることは實に云ひ盡せぬ位である。

現今及將來に於て敎育者で音樂を斯く深き意味ある尊きものと確信して居る人の多からん事を望むのである。孔子が三千年の昔に樂を以て最重いものとしたのは實に深き識見と云はねばならぬ。樂は東西其發達を異にして居るが何れも尊いものである。幼兒は原始的であるが故に其リズムも亦然るべきものでなければならぬ、併し幼兒は天性音樂の耳のあるものである。中々高尙な音樂も感じ得るものであるが、動作に至つては極めて原始的なものを擇まねばならぬ。歐米に於ける古代より傳はれるリズムと我國の幼兒によつて取扱はれて居る、日本旋律共に幼兒によく適合して居るものが多い。此多いリズムの中から其曲の氣分を取り其の曲の含む意味を了解し咀嚼してこれを樂器を通じて幼兒の心美に通はしむる時は、幼兒は實に保姆卽ち彈奏者の氣分と一致して、ここに立派な保育が行はるゝものと思ふ。

夫れ故に保姆は樂器に自分自身を使はれるのでなく、樂器を思ふ存分に使つて、其曲の氣分や意味を發揮し幼兒の聽覺に訴へたならば幼兒は掌中の玉となるのである。かくリズム……音樂の重要なる價値を持ち殊に敎育上……保育上至大なる功果ある事が自覺された保姆の方々は忍耐と勤勉とを以て音樂の修養とリズムの研究とに力を注いで貰ひたいと思ふ。これは啻に幼兒の幸のみに止まらない。自己の修養にも多大の利益ある事を深く信ずのである。

ぶらんこ

一漕ぎこげば身も輕く
青空たかく上りゆく
ぶらんこ遊びのたのしさは
他にくらべるものもない。

垣の上よりなほ高く
あがれば遠くがみはらせる
田舍の細い路に沿ひ
川も木もある牛もゐる。

黑いお屋根が下にある。
庭の茂みも下にある
あがつて下りて又あがる
宙に浮んだ上り下り。

——スチヴンソン——

亞米利加の保育界の現況

▲幼稚園の二部教授▼

幼稚園教育の根柢に横つてゐる所の原理は幼兒の教育に於て基本的の價値を有するものであるといふことが漸々と認められて來ました。

幼稚園へ入園するもの丶數は亞米利加に於ても益〻增加して行きます。亞米利加のカリフォルニヤの小學校では滿五ヶ年半の兒童でなければ入學を許さないことに規則を改定しましたが小學校へ入らうとする前に幼稚園教育を滿一ヶ年受けて來た幼兒は年齡が滿五ヶ年でも入學を許可されることになつて居ります。

幼稚園に於ける一ヶ年間の保育の價値が斯ういふ風に認められたといふことは一般教育者及び父兄の間に幼稚園に信賴せしめる情を昂めました。幼稚園といふものは益〻より善く理解されて行きつ丶あるのであります。

カリフォルニヤ州では現在の幼稚園數ではとても幼兒を收容し切れません、それで小學校で行ふやうに二部教授制を取つてゐます。つまり午前と午後との二回に亘つて、保育を行ふのであります。しかし午後の保育にはいろ〳〵都合のわるいことが多く、識者の頭を苦しめてゐる問題が多いやうであります。

午後の保育といふことには種々の故障が伴ふのでありますが、而かも尙保育を行はぬといふことよりもい丶ことは申すまでもありません。例へばローザンゼルスの如き繁華な土地に於ては今のところ、何うしても午後の保育を行ふより他に途がないのであります。

▲モンテッソリーの方法▼

亞米利加に於てはモンテッソリー主義の保育法は仔細に研究されて居ります。クインシー地方に於ては全然モンテッソリーの方法に據つた保育が二人の先生によつて二十五人の幼兒の上に試みられました。又ローマへ行つて親しくモンテッソリー女史の許に一ヶ年の修業を經て來たエディス、ジョンソン孃も目下盛んにモンテッソリーの保育法を研究して居ります。

クインシー學校の校長は二年間注意深くモンテッソリーの方法を實際に行うてみました、而してその結果を同地方に於ける普通の幼稚園の仕事に比較してみました。同氏はこのことを行ふべく非常に好都合であつたのであります、といふわけは同校にはモンテッソリー主義を嚴密に實行する級とフレーベル主義を嚴密に實行する級とが同一建物の中にあつたからであります。同校長の報告する所に據りますとモンテッソリーの方法は多くの便益を持つてゐるにも拘らず、モンテッソリーの方法があまりに小學校的であること――卽ち讀み方を敎へたり、其他いろ〳〵小學校で敎ふべきことを敎へてゐるといふ點に於て、モンテッソリーの方法を正味そのまゝで亞米利加の保育界に取り入れるといふことは多少困難であると申して居ります。とはいへ、モンテッソリーの原理を幼稚園保姆が體得して、大いにこの方法から暗示を受けるといふことが必要であることは言ふまでもありません。

同校長の報告から主なる部分を拔萃して次に揭げませう。

出來るだけの設備の下にモンテッソリーの敎具を試用した結果として、余はモンテッソリーの敎具及び觀念を使用することによりて、すべての幼稚園が裨益せらるべきことを信じて疑はず、若し夫れ一般幼兒敎育に對してモンテッソリーの與へたる貢獻に就て云々せんか、そは蓋し感覺訓練と他力に依らざる個人的努力を尊重

力說せる點にあるべし。後者は之を幼稚園に於て求めんこと難かるべしと雖も前者に至りては諸幼稚園に於て容易に之を利用し得べきなり、卽ち、モンテッソリーの諸敎材は之を他の敎ふべき何物かの前提とすることに、そのまゝに於て遊具として使用することに於て吾人は多大の便益を享受し得べし。

吾人は又色並べの保育上に於ける效果を認むることに吝かなるものに非ず、吾人は斯かる敎具が本市に於ても十分にこれを供給し得るに至らんことを望んで歇まざるなり。幅一吋、長さ三吋程の細木にペンキを塗り、光澤藥を布くことに依つてモンテッソリーの色並べの敎具の代用物を得べし、博識多才なる保姆は是等の色板を利用して諸種の興味ある「遊び」を案出すべきや必せり。

文字板及び數字板を使用することの價値に關してはジョンソン孃と余は意見を異にす。卽ち小學校の第一年級が滿六才の幼兒を以て組成せらるゝより以上は四才半の幼兒に讀み方を敎ふることの效尠かるべきことを感せずんばあらず

同一の幼兒に對して純正の幼稚園とモンテッソリー式の幼稚園との二種を提供し得る程に理想的なる設備を有する幼稚園に於ては純正保育とモンテッソリー式の保育との二つながらを交互に施し見んことも亦不可なかるべきか、吾人は目下ジョンソン孃の級に於て之を行ひつゝあり。斯かる保育を行ひ得る園にありてはモンテッソリー式の敎具を十分に備ふるを得べし、ジョンソン孃は希望者の爲めに親しくモンテッソリーの原理なり方法なりを一週に一度づゝ講演せらるべしとなり。モンテッソリーに就て吾人の云々するを聞くよりも有志のものは同孃に就き親しくモンテッソリーの方法の何たるかを解するに若かざるべし。然る時は敎育者達はモンテッソリー女史の原理をより善く理解するを得

べく、又教育家各自の選擇を自由ならしむる結果當然發見せらるべくして未だ氣附かれざることも發見せらるゝの便利あるべし。

報告の趣旨は大體以上の如くであります。即ち幼稚園の保姆はモンテッソリーの原理は多くの點に於て幼稚園の原理と異つて居るといふことを言つて居るのであります。モンテッソリー主義では個人的發達に重きを置いて居るに反し、幼稚園では集團的活動の訓練に重きを置いて居ります。モンテッソリー主義では「お話」を少しも使用しませんが幼稚園ではお話を非常に重大視し、これによつて幼兒の想像力を發達せしめ、國語に耳馴れしむることが出來ると考へて居るのであります。モンテッソリー主義は自由は自己表現の機會を持つて居ません、然るに幼稚園は何よりも先づ創造的活動力といふものゝ上に基礎を置いて居ります、而してすべての幼稚園の玩具は幼兒達自身の工夫によつていろ〳〵な遊び方をすることが出來ます。モンテッソリーの教具や方法もなか〳〵多くの暗示を我々に提供してくれます、故に我々は幼稚園に於てモンテッソリーの方法を參考するといふことの必要を大いに認めるのであります。けれども幼稚園を全然モンテッソリー式にして了ふことは一寸考ふべきことではあるまいかと思はれます。在來の幼稚園と何等の交渉のない全くのモンテッソリー式の級は亞米利加に於ては一九一五年十月二十九日以後廢止せられて居ります。

▲戸外保育▼

戸外保育に關する新しい注意が保育者達の間に惹起されました。

幼兒は遊び時間以外仕事時間に於ても屢々連出されて、各地へ小遠足を行はせられました。この小遠足には何時も郊外若しくは都市の近接地が選ばれました。この小遠足の目的は單に娯樂の爲めばかりでないことは言ふまふでもありません、幼

兒に智的の觀察を增大せしめ、外界の事物に對して妥當な態度をとらせるためであります。

この愉快な小遠足に於て集め得られたところの觀察や諸材料は園に歸つて學ぶことを幼兒に對して一層價値あるものとなさしめます。生れて始めて觀察したやうなものを、園に歸つてから幾許もなく、保姆達から正確に是正されるのでありますから、それらの觀念は幼兒達の頭に極めて正しいものとして殘るのであります、而してこれが幼兒達の後の生活にどれ程役に立つことであるかは言ふまでもありません。

亞米利加の某幼稚園の小遠足記を少しく次ぎに拔萃して見ませう。

毎日々々私達は野原や森の中にあてもなく歩み入ります。而して私達は高き木のいたゞきを吹いて通る春風の音を聞きます、日光の感じを愛し、暖い暗褐色の土の匂ひと萌え出る草の芽の匂ひを愛します、數限りなき綠の芽が四方から光に向つて突き進んで行かうとするのを見ます。私達は一緒になつてプシー、ウィロー(亞米利加特產の小柳)や赤楊の花を探してまわりました、私達は一緒になつてメープルの日一日と色づいて行くのを看守つて居りました、而して咲き出でるに從つて極めて普通の野の花を一つ〳〵名前を覺えました、それから又駒鳥(ロビン)や知更鳥(ブルーバード)やツグミや歌雀(ソングスパロー)の若い聲を聞き覺えました。

幼兒達は是等の散歩を非常に愉快がり、又樂しみに致しました。すべての悅ばしきもの〻中で、春時に於ける生物位、生々として又悅ばしきものはありません。鳥は樂しげに我等のゆくてを橫切つて木の茂みに飛び入り、如何にも愉快さうにその小首を現したり隱したりします、草に蔽はれた小川は駈けたり、飛び上つたり、輪を描いたりしながら、笑つて流れて行きます。

乍併、私達は何時も歩き廻つたり、遊んだり

花を集めたりばかりしてゐるのではありません。いくらか頭が疲れて來たなと思ふ時、私達は私達の仕事を戸外で行ふことにします。私達は大きな敷物や小さくて輕い黑板などを持つて戸外へ出かけます。私達は是等の敷物や黑板を何時でも、又何處へでも据ゑることが出來ます。幼兒達は強い洗濯の利くカバン（竪十五吋、横十八吋位のもの）をめい〳〵に持つて居ります。而してこのカバンの中には鋏や鉛筆や色鉛筆や糊壺や其他何でも其日の仕事に入用のものは皆入れて居ります。

空の青さに對して山をスケッチする喜びを想像して下さい、我々の眼の前にひろがつてゐるところの木立のある野原をスケッチする喜びを想像して下さい。近くの木で歌つて居る駒鳥を描くたのしさ、草の浪の起伏する野原、星を散らしたやうに咲き出でた蒲公英、さてはヴアイオレット、うまのあしがた、野菊、クローバー是等のものを描くたのしさを想像して下さい。

毎日々々、自然の寶庫から智識を集める幼兒に就て考へて下さい。自然の中には決して喜びが盡きません。植物の葉、花、實、圖取りすること、彩ること、貼りつけること、切り拔くこと、――自然に對する幼兒の喜びは無限であります。

▲保育者の會合▼

亞米利加に於ける保育者の數は非常に增加して來ました、それがために彼等の間に催さるゝ會合も一種では間に合はなくなりました。それで一週間毎に開かれる會合が二種類出來て來ました。一つの會合は新しい保姆達の集合で主もに來週行ふべき保育に就て互ひに具體的の研究をしあふのであります、お話や遊戯や恩物に就て互ひに意見を交換します、而して互ひにその保育振りを參觀して批評し合つたりするのであります。もう一つの

會合といふのは第一流の保育者達の集つて開く會合でありまして、出來るかぎりインスパイヤリングならんことを努めるのであります。而して一月に一回づゝ母の會をもこの會の手によつて開きます。而してそれ〴〵の專門家を聘して、「社會活動家としての保育者」「兒童と還境」「兒童の倫理」「兒童の訓練」「理想的の家庭」「家庭衞生」といつたやうな問題に就て講演していたゞきます。この會合に於ては一般に廣い意味に於ける敎育問題が論議せられます。

家庭訪問や母の會は益〻盛になつて行きます。是等の企畫は幼稚園を幼兒敎育の中心としやうとする運動の現れでもありますが同時にとかく家庭に引籠り勝ちの婦人に社交の愉快を與へるためでもあります。

言ふまでもなく幼稚園といふものはその室內に於ける保育のみを以てその任を全うし得るものではありません、家庭と社會との協同を得て始めてその任を全うし得るのであります。それ故に家庭の標準を高め、家庭と社會との敎育を幾分高める必要があるのであります。

母のための巡回文庫や遠足といふやうなことも目下考察されつゝあります。

▲保育思想と小學校▼

幼稚園で行つてゐることゝ小學校で行つてゐることゝは全然連絡がありません。

幼稚園に於ては、幼兒は、自由、創造力、遊戲、本能、自發的表現、社會的、團隊的關係、多くの敎具の取扱、想像力の開發、實物に就ての直接の示敎、斯ういふことに氣を附けさせられます、それが急に窮屈な周圍と全然異つた目的と方法とを持つてゐる異つた世界へ飛び込むのですから大變であります。換言すれば幼稚園から小學校への轉移はあまりに急劇であります。それで幼稚園から小學校への轉移をもう少し滑かならしめるために、

幼稚園の保姆が一週に二回づゝ小學校の一年級の午後の授業を援助旁〻參觀するといふやうな方法が行はれ始めました。小學校の先生の方でも亦幼稚園へ行つて保姆のすることを助けながら保育の要領を悟りたいといふ希望を持つて居るものが多いのであります。次ぎに掲げるのは斯る催しを試みてゐる人々の手紙から書き拔いたものであります。

「小學校と幼稚園が協同することに依つて生ずる利益には次の如きものがあります。

一、劣等兒の誘導に關して大いに悟ることが出來ること。

二、幼稚園に於ける言語の練習、動作遊戯の練習、及び手技の練習は兒童の語彙を富ますこと。

三、製靴所の參觀の如く、諸種の手工場を參觀することに依つて兒童の觀察力を長せしむるを得ること。

「遊戯は結構なことではありますが悲しいかな、現在のやうでは小學校でそれを十分に行ふことが出來ません、小學校の第一年級では一日に十二分づゝの遊戯時間がありますがこれではとても足りやう筈がありません。

こんな具合で小學校の先生の方では大悦びですが保姆の方ではあまり結構ではないやうです、といふわけは午前も午後も休みなしに働いたのでは大切な氣力（熱心、遊びの精神）といふものがなくなつて了ふといふのであります。保姆が熱心を持たず、又遊びの精神を持つてゐないかぎりは幼稚園も孤兒院も一つものになつて了ひます。何は然れ、亞米利加に於て幼稚園と小學校とが接近しつゝあることは事實であります。小學校の第一年に於て保育に近い教育を施さうとすると幼稚園の一級よりも餘程多數の兒童を含む級を受持たなければならぬ第一年の先生は却々骨が折れるわけであります。それで是等の問題も目下盛んに研究されて居るのであります。

抄錄

幼稚園兒童の貨幣と色彩に對する知識に就て

醫學士　大西義衞述

一、目的

低能兒竝に低格者の智力檢査を爲すに當り、「貨幣竝に色彩に對する知識」に方つての檢索は、東西諸大家の皆等しく行ふ所である。（例へば佛のビネー、獨のチーエン、我國にては三宅、榊の諸博士、近くはドクトル三田谷氏の如き）。實際文明の人種程數多き貨幣を取扱ひ、多種にして複雜なる色彩を使用する點から見て、これに對する知識の發育如何は、直ちに其人の智能の程度と關聯するものとも思はれる。余はこの點から出發して幼稚園兒童の此二つの知識に對する發育如何を見、併せて兩者の間に如何なる關係があるかを見たいと思ふ。

二、實驗

時日、自大正四年十二月二十四日至五年一月十三日

材料、「貨幣」には五厘、一錢、二錢、五錢、十錢、二十錢、五十錢、一圓を用ひ、「色彩」には園兒の使用せる折紙を以てした。

方法、兒童を一人宛別室に呼び入れ、「これは何んですか」と聞き、其答へを一々かきとめる。「貨幣」は五厘、一錢、二錢、五錢、十錢、二十錢、五十錢、一圓の順に、「色彩」は赤、黑、黃、青白、紫、綠、桃色、藍色、藤色、牡丹色、樺の順を以てした。試驗者として始終同一の保姆これに當つた事勿論である。尙色彩に對しては方言に對して特に注意した（例へば藍色を空色、樺を蜜柑色と云ふが如き）。

人員、坂出幼稚園の兒童男五十九人、女五十八人合せて百十七人（三年保育のもの六人、二年二十

一人、一年九十人)。

而して其成績は左の如しである。

年別 / 貨幣	三年保育	二年保育	一年保育	總和	男	女
五厘	一・〇〇	一・〇〇	〇・九五	〇・九六	〇・九四	〇・九八
壹錢	一・〇〇	一・〇〇	〇・九四	〇・九五	〇・九四	〇・九八
貳錢	一・〇〇	一・〇〇	〇・七八	〇・八四	〇・八四	〇・八二
五錢	一・〇〇	〇・九〇	〇・四七	〇・五九	〇・五五	〇・六〇
拾錢	〇・五〇	〇・七一	〇・二六	〇・三六	〇・三七	〇・三四
二十錢	〇・五〇	〇・四七	〇・一四	〇・二三	〇・二七	〇・一七
五十錢	〇・一六	〇・三八	〇・一二	〇・一八	〇・一六	〇・一八
壹圓	〇	〇・〇九	〇・〇四	〇・〇二	〇・〇六	〇・〇三

年別 / 色彩	三年保育	二年保育	一年保育	總和	男	女
赤	一・〇〇	一・〇〇	〇・九七	〇・九八	〇・九八	〇・九八
黑	〇・八三	一・〇〇	〇・八八	〇・九〇	〇・八六	〇・九五
黄	一・〇〇	〇・九九	〇・九〇	〇・九三	〇・九三	〇・九三
青	〇・六六	〇・五二	〇・四六	〇・五二	〇・六六	〇・三八
白	一・〇〇	一・〇〇	〇・九五	〇・九六	〇・九五	〇・九八
紫	〇・八三	〇・九〇	〇・五二	〇・六一	〇・五七	〇・六三
綠	〇・五〇	〇・〇六	〇・二三	〇・三一	〇・二〇	〇・四三
桃	〇・八三	〇・九九	〇・六七	〇・七三	〇・八六	〇・七三
藍	〇・六六	〇・〇六	〇・二四	〇・三三	〇・四四	〇・三二
藤	〇・〇五	〇・一九	〇・〇一	〇・〇六	〇・〇四	〇・一〇
牡丹	〇・三三	〇・三八	〇・〇一	〇・一六	〇・〇四	〇・一〇
樺	〇・〇五	〇・六六	〇・四八	〇・五二	〇・四二	〇・六〇

更に「色彩」に於て十二種中十ヶ以上、「貨幣」に於て八種の中六ヶ以上の陽性成績を得たるものを優等とし、「色彩」に於て三ヶ以下、「貨幣」に於て二ヶ以上の陽性成績を得たるものを劣等となし次の結果を得た。

貨幣

優等兒	總數	性別 男	性別 女	年級別 一年	年級別 二年	年級別 三年
	二四	一二	一二	二	一〇	一二
劣等兒	五	三	二	一		三

色彩

優等兒	總數	性別 男	性別 女	年級別 一年	年級別 二年	年級別 三年
	一六	三	一三	三	九	四
劣等兒	四	二	二	一	一	四

右の中「貨幣」「色彩」共に優なるもの九人、共に劣なるもの一人にして、今両者の總得失を平均すれば次の如し。

「貨幣」の優等兒が「色彩」に對する得點　八・五
「貨幣」の劣等兒が「色彩」に對する得點　四・二
「色彩」の優等兒が「貨幣」に對する得點　五・四
「色彩」の劣等兒が「貨幣」に對する得點　一・七

三、結論

「色彩」に關する知識は次の如くである。

一、園兒の最もよく知れる色は赤、(九八%)にして、白(九六%)此に次ぎ、黃(九三%)黑(九〇%)、桃色(七三%)紫(六一%)、青(五二%)、樺(五二%)、藍(三三%)、綠(三一%)、牡丹(一六%)、藤(六%)と云ふ順序である。卽赤、青、白、黑、黃、紫、樺、桃色の八色は園兒の半數以上は知つて居る色で、藍、綠、牡丹、藤は兒童にとりて稍困難なる色の樣に思はれる。

二、男女によりて成績は異なる。女の方が一體に(各色に就て)男より成績がよい。

三、其中「青」は男の方が勝り「紫」、「牡丹」、「黑」「綠」は女の方が勝れて居る。

四、成績は保育の年級がすゝむ程良好である。

五、優等兒は男よりも女が多い。一年よりは三年保育のものに多い。

六、劣等兒は男女相半ばし、一年保育のものに多い。

「貨幣」に關する知識は稍〻異なりて居る。

一、最もよく知れるは五厘(九六%)、次は一錢(九五%)で、二錢(八四%)、五錢(五九%)、十錢(三六%)、二十錢(二三%)、五十錢(一八%)一圓(二%)と漸次順追ふて正しき階段を爲して居る。

二、五錢以下の貨幣は園兒の半數以上(五九%)は知りて居る。

三、男女によりて成績は「色彩」の如く甚だしき相違がない。

四、年級の別も同樣である。

五、優等兒も男女に別なく年級によりて差がない。

六、劣等兒も同樣男女、年級によりて差違がない。

而して此の二つの知識は其發育と相平行して居る。換言すれば「色彩」の知識に勝れたるものは「貨幣」にも勝れ、「貨幣」に劣りたるものは「色彩」にも劣つて居る。

四、附言

以上は余が坂出幼稚園兒童に對して爲した成績である。余はこれを以て直ちは全兒童の夫れに應用せんとする程盲斷でないが。少なくも一地方の兒童の「貨幣竝に、色彩に對する知識」は此の如きものと云ひ得ると思ふ。特に兩者が相竝行し、色彩に對する知識が三田谷氏の八歳の「テスト」（智力檢査箱）に相應するが如きは、偶然の一致なりとは云へ注意に値すると思ふ、敢て先輩諸彦の叱正を俟つ所以である。

終りに此調査を爲すに當り多大の便宜を與へられたる園長宮崎熊三郎氏並に野口、喜田、松野の三保姆に對して感謝の意を表す。

（兒童研究第二十一卷第五號）

各園情勢

彦根幼稚園

○沿革

明治二十五年五月一日私立東幼稚園を大字五番町に創設し兒童の保育をなす。

明治三十年十月一日私立西幼稚園を大字下魚屋町に創設し幼兒の保育をなす。

明治四十年七月十四日共に私立を廢し町立となる、大正二年四月十二日東西幼稚園を廢し之を併合して彦根幼稚園となる。

この間一盛一衰ありと雖も微々として振はざしが四十年以來は保育研究會幼稚教育講習會等に出席して大家の指導に從ひ保姆の盡瘁により日に月に隆盛の運に赴き、漸く今日の域に達するを得た

り。

大正五年度末保育を終了し小學校に入學せしもの。

男八十七名、女七十名合計百五十七名。

創立以來保育終了せしもの男千二百八十六名、女千百九十五名合計二千四百八十一名。

現今本園に於ては有資格保姆四名、保姆心得二名、高等女學校卒業のもの園婢二名にて幼兒男百三十名、女百三十三名合計二百六十三名收容せり。

之を幼兒の尤も好める色を以て六組に區別し第一を菊とし赤を配す、第二を牡丹とし牡丹色を配す、第三を百合とし樺色を配す、第四を櫻とし櫻色を配す、第五を山吹とし黃色を配す、第六を松とし綠色を配す、菊の組には年少幼兒を取り、牡丹、百合、櫻、山吹松の五組は翌年四月入學の期に達するものを取る、但し各保育室の入口に彩色したる繪畫の扁額を掲げたり。

○保育要旨一斑

幼兒の心を圓滿に發達せしめんが爲めに、園內保育園外保育を行ふ、園內保育には會集、修身、庶物、唱歌、手技、遊戲等を季節に應じて之を授けて、道德的に導き園外保育にては專ら身體を健全に發達せしめ幼兒の幸福を增進せしむ。

當園に於ては春秋二回の遠足を行ひ、每月一回乃至二回の園外保育を行ふ、然しながら遠足といふも道程の遠近によるに非す、需時間の長短と服裝の如何によりて命じたるまでにて、實は園外保育、野外保育と大同小異なるものなり。

雜錄

○本會主幹

本會主幹は久しく缺員のところ、今回幹事倉橋惣三氏主幹として湯原會長より依囑せられたり

○本會二月例會豫告

廣告頁掲載の如く、フレーベル會に於ては、來る九日(第二土曜日)午後一時半より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て例會を開催す、當日左の講演あり、多數諸君の出席を望む

米國の婦人と子供　東京高等師範學校附屬小學校主事　佐々木吉三郎君

○編輯だより

△今年は以ての外の寒氣に御座候、大分風邪に襲はれし方々も有之べく誌上を以て御見舞申上候

△卷頭の「園丁雜感」は毎號倉橋先生の御執筆にかゝるものにて、宛然詩の形を以てせらるゝ先生の御高說は必ずや讀者諸氏に多大の感興と利益とを與ふることゝ存ぜられ候。

△「本眞劍」も亦倉橋先生の御執筆にかゝるものにて、先生の造次にも顚沛にも憂慮せらるゝ現代兒童の眞摯性の缺乏に對する御警告に有之候、よろしく讀者諸君の御熟讀を祈る所に御座候

△土川五郎先生の「リズムに就て」は新年號原稿として頂戴致し候ものに御座候が相惜締切後に入手候まゝ本號に掲載仕りたるにて候、「律動的遊戲」卽土川といづれも樣御存じの先生のリズムのお話に御座候へば是亦よろしく御熟讀の程願上候

△「亞米利加の保育界の現況」は實踐女學校附屬幼稚園の森まる子女史より頂戴仕りたる同女史宛の書翰より拔萃飜譯仕りたるものに御座候

△菅原先生の「眞向きと橫向き」は本誌に於ける唯一の光彩に有之候引續次號以下に續稿を賜はる筈に御座候

『眞向き』と『横向き』（一）

——保育に於ける圖畫及び剪紙の理論の美學的基礎——

菅原教造

□ 七分三分向き

藝術の上で、人間の顏面を描出して、しかも特徴を充分に發揮させやうとしたら、どう云ふ風に——どう云ふ「向き」に其顏面を定位したらよいか。

吾々は子供の時から、錦繪や、繪草紙や、本や雜誌や新聞の挿繪で、澤山顏の描き方を見て來たそして其向きは大部分は「七部三分の向き」であつた——卽ち「眞向き（アンフアース）」でもなく「横向き（プロフィル）」でもなく、其中間に位した一種獨特の向きであつた。西洋人は之を「四分の三の横向き（スリー・フオース・プロフィル）」と呼んで居る。

これは一つは、線描きでしかも陰影の付かない日本畫の描法から云つて、尤もな事でさる。日本畫で顏の形を「眞向き」に描けば鼻の形殊に其高さが現はしにくいのみならず、「眞向き」でも「横向き、」ても頰の線が「七分三分の向き」ほどに巧みに現はされない。それからもう一つの理由として、「眞向き」は餘り眞面目腐つて、且つゆつたりし過ぎて、「七分三分の向き」ほどの面白味がない。さればと云つて「横向き」では、何となくよそ〳〵し過ぎて、且つ鋭くつて、吾々日本人には昔から餘り悦ばれなかつた。

かう云ふ關係から、日本畫には大部分は此の「七分三分の向き」が行はれた。それから、これが習慣に成つたといふ理由でもあるまいけれども、寫

眞を撮る時にも、此の「七分三分の向き」が非常に多く選ばれるやうである。

□ 顏の向きの兩親

しかし此の「七分三分の向き」の特徴を精しく考へる事になると、どうしても其兩親と見做すべき此の「眞向き」と「横向き」に問題が立ち歸つて來る。吾々は「眞向き」を調べ、「横向き」を究めて、其特徴を分析し整理し、扨て之を「七分三分の向き」に綜合して、之を解釋して見なければならぬ。

此の如く、「眞向き」と「横向き」は心理的に見て、いろ〳〵な向きを生み出す兩親であるばかりでなく、顏面を描出する美術上の表現法から云つても、又顏面が看者に與へる效果から見ても、極めて大切な且つ唯一な向きである。

此の二つの向きに較べたなら、其他の向き、卽ち「七分三分の向き」とか、「後から見た半横向き」とかは特徴を表はす價値が極めて少ない。況や「後向き」などは、諷刺畫などの外には滅多に用ゐられない。

□ 彫刻の向きと繪畫の向き

彫刻などの場合では、見る人の方で自分の位置をいろ〳〵に變へさへすれば、「眞向き」でも「横向き」でも「七分三分の向き」でも、思ふ通りの向きが、隨意に得られる。見物人が自分の位置をいろ〳〵自由に選定して、さま〴〵の向きを欲するが儘に作り出す事が出來る。

然るに繪畫とか高くない浮彫などの場合には、さう云ふ自由が利かないから、作者の方で豫め一定の向きを定めてかゝらなければならぬ。言ひ換へれば、作者が見る人に對して、一定の向きを指圖する事になる。それ故作者に取つて、「眞向き」にするか「横向き」にするかと云ふ事は、構圖の

時に非常に重大な問題となつて來る。つまり「眞向き」と「横向き」とで、作品の效果に根本的な差が生じて來るからである。

然らば、「眞向き」と「横向き」が與へる顏面の表現に、果してどれ丈けの根本的の差があるであらうか。

□ 眞向きの描出の得失

「眞向き」の特徴を一言で述べて見れば、人生の全般の面影を吾人に示すと云つたらよからうが、卽ち「眞向き」は顏面の完全なる描出を爲すものである。此の向きは、顏面全體の構造を充分明らかに表現し、何等の不明な所を殘さない。口は全體を描き、眼は二つ共現はし、額は全部悉く示されて居る。しかも「眞向き」では、顏面の中央部は最も明瞭に描出されて居るけれども、顏の兩側卽ち右や左の部分は、ずつと明瞭の度が減じて來る。殊に甚しいのは、側面に位して居る耳の形である。卽ち「眞向き」では耳が一部しか見えない。耳の特有の形は不明である。此の點から云へば「横向き」の方が遙かに此の描出に適して居る。

それからもう一つ「眞向き」の不得手な點は或る種類の顏面の特徴を描出し得ないで、止むを得ず之を捨てなければならない事がある。例へば、曲つた鼻、くびれた頤、頸と頭との連なり方などは「眞向き」に於ては極めて不明瞭に現はされて居るに過ぎない。

□ 横向きの描出法

今例に擧げたやうな、顏面の出たり引込んだりして居る部分などになれば、「横向き」の方が遙かに手つ取り早く且つ明瞭に之を描出し得る事は言ふまでもない。

其他眼とか耳とか云ふやうに、二つ揃つて居るものを、「横向き」にして一つ丈け描出すれば、見る方で他の一つを想像して觀念を以て之を補つて

くれるから此の向ふ側卽ち背面にもう一つの眼や耳があると云ふ此の心的連絡が、かなり鋭敏に取れて來る。

此の關係は顏面のみに限られて居ない。同じ理屈は身體の他の部分にも當てはまる。例へば。「眞向き」では、腕が二本、脚が二本見えて、胸は全體が現はれて居る。しかし各部の連絡などに就ては「眞向き」は甚だ粗雜な不完全な說明を與へるに過ぎぬ。それ故胸と下體との間の高低、體軀と脚との連絡、膝や肱の屈曲などを示すには、「橫向き」の方が遙かに都合が好い。

今「眞向き」と「橫向き」の特徵を約言して見るなら「眞向き」は空間的に橫に並んだものを現はすに適し、「橫向き」は空間的に上下に並んだものを描くに適すると云ふ事が出來やう。

□眞向きの表現

顏面や體軀などの描出と、「眞向き」と「橫向き」とに依つて斯の如き得失があるやうに、「眞向き」に現はされた顏面と、「橫向き」に描かれた顏面とが看者に與へる印象や效果にも、非常な差がある。

「眞向き」の顏は見る人の方へ、ぐん〳〵と遣つて來る。眼は貫くやうに、見る人の方を向いて居る。時にどうかすると、見る人を足で殘酷に踏み付けでもするやうな勢ひにも見える。さうでないにしても、靜かな落付いた眼で、人の心の底までも研究的にぢろ〳〵と見詰めてゞも居るやうに、見る人の深い心の奧底を引張り出したり訊きたゞしたり又は乞ふ所があるやうにも見える。又どうかすると、嘲笑的に顏を歪めて看者を笑ひ、看者自身よりも精しく看者の心を知つて居るとでも云ひたさうにして居ることもないでもない。

兎に角、吾々の前に立つて居るにしても、又吾々の方へやつて來るにしても、何れの場合にしても、「眞向き」の顏は、吾々と直接の交通をして居

ると云ふ事は確かである。

□横向きの表現

所が「横向き」になれば、丸で別の感じを看者に與へる。「横向き」の人物は吾々の方へやつて來ない。右か左か、横に向いて吾々看者の傍を通過して行つて了ふ。全くの「横向き」は吾々を見もしない。吾々に注意もしない。實際眼の位置から云へば、看者を見たり注意したりする事が出來る道理がない。

舞臺の上で、人物が互に向き合つて何かして居る時などは、見物には横顔しか見えない。元來「眞向き」の場合には、人物が一人しか現はれて居なくども、看者の方で之を補つて、いろ〳〵意味を付けて滿足する。之に反して「横向き」では一人の人物丈けでは不足である。どうしても第一の「横向き」と相對した第二の反對の向きの「横向き」が欲しくなる。此の第一の「横向き」と第二の「横向き」との關係は、敵でも味方でもそれは構はない。兎に角、第一と第二とは何かしら關係がなければならぬ。此の關係を一言して見れば、つまり「横向き」は第二の之と反對の「横向き」が有つて、初めて統一が得られると云ふ事である。

□眞向きは看者へ—横向きは第三者へ

「眞向き」は、自分と看者以外の周圍の事などはどうでも構はない。「眞向き」は直接に看者とのみ關係があるので、「眞向き」の世界は全く看者との交渉から成り立つて居る。

之に反して「横向き」は周圍と關係があるので、此の周圍の規則に、「横向き」の人物も看者も共に從つて居る。別言すれば、「眞向き」の人物の相手は、吾々卽ち看者である。然るに「横向き」の人物の相手は、看者ではなく、看者の知らない第三者である。

□顔の向きと視線の向き

しかし、「眞向き」だから看者との交渉はかくかく「横向き」だから第三者との連絡はこれ〳〵と、今述べたやうな關係に成つて居るのは、顔面の向きと視線の方向とが一致して居る時の事である。然るに此の二つの方向が一致しないやうな場合には、必ずしも此の關係が意識されない。

例へば「眞向き」にしても、眼が下を向いて居る事もあらうし、又看者を通り越して向うを見て居る事もあらう。時には又看者や周圍と全く關係がないやうに畫かれて居る事がないでもない。「横向き」にしても同じ事である。或は横目を使はせたりすれば、看者と關係が付かない事はない。

つまり、看者とか第三者とかへのかう云ふ關係が成り立つのは、前へとか横にとか云ふ方向軸・視線卽ち眼の付け所が各々の向きと一致する爲めに「眞向き」なり「横向き」なりの特徴が有效に感せられるのである。

□向きの選擇と頭の形

そして、「眞向き」が人物を現はすか、「横向き」が人物を現はすかと云ふ問題になれば、それは各々得失がある。又作者の方から見ても、或は「横向き」を重んずる人もあるし、「眞向き」を取る人もある。

一言すれば「横向き」は人物の特徴を描き出す事が出來るけれども。「眞向き」ほどに多く且つ精しく各部を描く事は出來きぬ。「横向き」は實は筋書きで微細な點は現はれない。今頭の形を主にして二つの向きの描出法の技巧の難易を述べて見やう。

繪畫では、一般に「横向き」よりも「眞向き」の方がむつかしい。其理由は極めて簡單で明瞭である。元來繪畫は平面で仕事をする。それ故、線とか模樣とか云ふやうな平面的のものは最も現はし

易いけれども、深さ卽ち奥行きを描出しやうとすれば、かなり困難を感ずる。此の平面に奥行を見せる方法は、非常に複雜なもので、線や空氣の投視、蔭影の付け方などを巧みに用ゐなければならぬ。

今頭を正面から寫すとする。大體から見て頭は出たり引込んだりした層が重つて出來て居るものと見る事が出來る。此の層の各部を一々述べて見れば、先づずつと出て居るのは鼻で、引込んで居るのは頰である。次に出て居るのは額で、引込んで居るのは眼窩である。又側面では耳が突出して居る——

□顏面の形態より生ずる眞向きと横向きの消長

かう云ふやうな凹凸の立體を繪畫で示すとする。絕對的の分量から云つても、「眞向き」の方は「横向き」よりも、多くを現はして居る。「横向き」の方は、現はす部分が少ない。例へば「横向き」では鼻や口を半分より現はさないけれども、「眞向き」の方では全體が分る。

今度は深さを比較して、「横向き」の時の顏の奥行と、「眞向き」の時の奥行とを較べて見れば、「横向き」は「眞向き」の三分の一の深さしか現はす事が出來ない。卽ち深さの量に於ても「眞向き」の方が勝れて居る。之に應じて、出たり引込んだりする度合も、「横向き」の方は遙かに少ない。

之を一々の部分に就いて細かに說明して見るならば、額でも頰でも鼻でも、「眞向き」では急に奥の方へ落ち込んで行くけれども、「横向き」ではゆる〳〵と淺く落ちて行く。婦人の髮容(かみかたち)などは、殊に此の「眞向き」と「横向き」の差が著しい。

要するに顏の側面の構造から云へば、「横向き」では深さを現はさうとする苦心が少しもいらない。「横向き」が別に陰影などを用ゐずに、「眞向き」より容易に眞物に似ると云ふ理由は、實に茲にあ

るので、「眞向き」では此の深さ高さを示す陰影が却々(なかなか)むつかしい。それ故素人でも「横向き」を描く方が「眞向き」よりも非常によく本人に似せる事が出來る。

□七分三分の向きの特徴

今度は「七分三分の向き」に就て考へて見やう。「眞向き」と「横向き」の特徴や其比較に就ては、今までにかなり精しく述べた。既に說いたやうに、此の二つの向きは、總ての向きの兩親である。それ故此の二つを取捨して考へて見れば、「七分三分の向き」の特徴も、自ら解される。

「七分三分の向き」と云ふものは、「眞向き」の眼の表現と、「横向き」の輪廓の特徴とを合したものである。「七分三分の向き」にすれば、「眞向き」では現はし得ない鼻の高さや、頤と咽喉の續きや、頸の形や髮容などが、かなり良く現はされるのみならず、又「横向」きでは描き得ない頰の線が非常によく出て來る。

次に看者との關係から云つて見れば、「七分三分の向き」は、「横向き」のやうに吾々に背きもせず、「眞向き」のやうに執着も深くなく、甲の位置から乙の位置に移つて行く一瞬間と云ふやうな運動的な感じを示して居る。もつと精しく云へば、此の向きは呼べばすぐ自分の方を向いてくれるし看者の方に格別の執心がなければ、彼方に向いて了つてもよい、と云ふやうな態度を取つて居る。

□影繪の特徴

もう一つ述べなければならないのは、「横向き」の一種と見る事の出來る「影繪(シルエット)」である。

既に說いたやうに、「横向き」は云はば人物の頭の形を輪廓線で示したもので、眞向きに較べると線の變化や凹凸のリズムなどが面白く出て、しかも「眞向き」よりも樂に實物に似せる事が出來るけれども、人物の特徴や顏面の表情の徹底的の描出

は困難である。即ち「横向き」は表現性に乏しい、一言すれば中味が足りない憾みがある。

若し此の「横向き」が更に其中味の重大さを失つて、輪廓丈けを非常に重んずるやうになれば、則ち「影繪」が出來上る。故に「影繪」と云ふものは、手つ取り早く實物に似せ易いと云ふ「横向き」の特徴即ち顏の輪廓の記憶——其親密さと云ふ事丈けを狙つて成り立つたもので、其他の要素は何一つとして現はされて居ない。即ち「影繪」の價値は一に此の「横向き」の輪廓線の價値に懸つて居る。此の點から見ると、「影繪」は最も抽象的な顏面の描出法であると云つて宜しい。

□肖像畫の起源

「影繪」を說いたついでに之に關する興味ある挿話を語らう。

繪畫の起源、就中肖像畫の起りを想像した昔の人は、羅馬のプリニウスの書に依つて、よく此の「影繪」を引き合ひに出した。昔ポンペイの町を埋沒せしめたヴェスヴィウス山の大爆發は、此の火山の研究の爲めに出張した博物學者のプリニウスの生命を犧牲にした事は、人のよく知る所である。此の人の書いた有名な「博物書」は、嚴密に云へば博物書でなく、實は當時の見聞を廣く集めた「和漢三才圖繪」的の雜書であるが、其第三十五卷に於て、プリニウスは此の肖像畫の事始めの傳說を今日まで傳へてゐる。

此の記錄によると、或る若い娘が、燃えさしの杖の先端で、岩の上に影を投げた其の戀人の横顏の輪廓を寫した——此のなつかしい地上の影は、即ち「横向き」及び「影繪」の起源であると。

勿論、先史考古學の示す所では、此の傳說を確める何等の證據がない。しかし別れを惜む若い人の切な思ひが、其戀人の影を形に留めて、消えない思ひ出の種にしたと云ふ事は、肖像畫の起源を說く物語として、有りさうな誠らしい感じを與へ

る。

□眞向きと横向きの混同

「横向き」から「影繪」が引出され、「眞向き」と「横向き」の特徴から「七分三分の向き」の性質が說明されたが、尙一つ描出法から見て不思議な、しかし興味ある事實は、原始的の藝術に於ては、此の「眞向き」と「横向き」が同時に現はれると云ふ事である。勿論、此の有り得べからざる混同が、實際にしかもかなり多く起ると云ふ事に就ては、之れ丈けの心理的の理由がなければならぬ。

子供の畫く繪や、野蠻人の藝術や、太古の原始時代の住民の作品などに、此の「眞向き」と「横向きの混同がかなり多いのは、誰でもよく知つて居る一般的の事實である。例へば古代の埃及人の描いた人物畫には、「横向き」の顏に「眞向き」の眼が描かれ、「眞向き」の胴に「横向き」の腕が付いて居る。又子供の畫く動物畫には、「横向き」の體に「眞向き」の耳や角が描かれ、「横向き」の人間の顏に「眞向き」のやうに眼を二つ付けたり、「眞向き」の顏の頰の輪廓に横向きの鼻をつけたりする。

□寫生の藝術と記憶の藝術

かう云ふ例を集めたら、殆と煩に堪へないほど澤山集つて來やう。然らば此の「眞向き」と「横向き」の混同は、どうして起つたか。

大體から云へば、精神生活の充分に發達しない原始的の生活をしてゐる人々は、實物の寫生によつて卽ち感覺的に繪を畫かずに、最も明瞭に其記憶に留まつた所に從つて卽ち心像的に製作する。之を生理的に云へば、知覺神經から其まゝ運動神經に移つて行かずに、一旦中程で變化された後に運動神經に移て行く。もつと碎いて云へば、見た通りの形を畫かずに、知つて居る通りに姿を拵へる。

一方は見た通りを寫生するから、寫生の藝術と

呼ばれ、他方は記憶の心像によつて畫かれるから記憶の藝術と云はれる。人々に依つては寫生の藝術を視覺的寫實主義と云ひ、記憶の藝術を論理的寫實主義と名けたりする。其他前者を自然主義と云ひ、後者を樣式主義と云ふものの中に含ませて論ずる人もある。

勿論例外はあるが、右の理由に依つて、同じ子供でも、割合に世間の事情に通じて居る下級の子供は、おつとりと育つた上流の子供よりも、寫生的に畫く傾があり、同じ原始人類にしても、低級な漁狩民族よりも、生活の進んだ農耕民族や牧畜民族の方が、此の「眞向き」と「横向き」の混同をする事が少ないやうである。

□自然主義と樣式主義との對立

しかし藝術論上の一問題として、玆に注意しなければならないのは、寫生の藝術卽ち自然主義と記憶の藝術卽ち樣式主義との優劣論である。吾々は輕々しく甲を揚げて乙を貶する事が出來ぬ。勿論藝術の極致は、二つの內何れに在るかと云ふやうな事は、にわかに決し難い大問題である。しかし時により處により學說によつて、其評價に消長があると云ふ事丈けは確かである。

例へば時代の傾向から云つて、或は甲が勢を得る事もあり、或は之と反對に乙が優位を占める時代もある。現代の藝術の傾向から云へば、勿論樣式主義が上位を占めて居る。又民族の趣味から見ても、甲でなければ滿足の出來ない國民もある、乙の藝術のみを高調する國民もある。云ふまでもなく吾々東洋人の好みは樣式主義に傾いて居る。其他藝術發達論の上から見ても、必ずしも原始的な藝術として記憶の藝術が先きに起り、發達した藝術として寫生の藝術が後に現はれると速斷することが出來ないやうである。又自然主義の味しか分らないと思はれて居る西洋の美學者の中にも、案外にも東洋畫論に似たやうな思想を叙べて居る所

謂多少話せる人もある。

□原始藝術

今茲で藝術論を詳說して居る暇がないから、問題を再び「眞向き」と「横向き」に戻して、原始藝術に於ける構圖や技巧などの上から、どう云ふ對象が「眞向」きに適して、どう云ふ場面や光景が「横向き」に合ふかと云ふ問題を考へて見やう。

しかし此の問題に入る前に、原始藝術と云ふものに就て、大體の解說を述べて置かなければならぬ。原始藝術とは、精神の發達及び文化の階級の低い人類の作つた藝術で、之を作者の生活から見て、三つの種類に分けることが出來る。第一は兒童の藝術、第二は現代の野蠻人(又は自然人)の藝術、第三は先史人類(有史以前の人類)殊に今から約二萬年以前の舊石器時代の人類の藝術である。

此の三つの藝術の間には、共通點もある――殊に自然人と舊石器時代人の藝術は好く似て居る――けれども、又差別點もある。兒童の藝術はかなり、自然人の藝術とも舊石器時代人の藝術とも異なり、自然人の藝術は多少舊石器時代人の藝術と違つて居る。

それ故之を一括して原始藝術と稱するのは、聊か概括化に過ぎる嫌があるけれども、今は之を文化人の藝術と比較して、たゞ其大まかな特徴を取り出して云ふまでの事である。

□名と實

茲に名稱の上で注意しなければならないのは、原始人及び原始藝術と云ふ名の範圍に就いてゞある。原始人と云ふのは、自然人と先史人とを一括して、兒童に對して命じた名で、二手に跨つた正確でない名辭である。故に正しくは原始人と云はずに、自然人又は先史人と分けて呼ぶやうにしなければならぬ。

又原始藝術の範圍に於ても廣狹がある。廣義で

は兒童と自然人と先史人との藝術を合したものを稱するけれども、狹義では自然人と先史人の藝術丈けに此の名を限つて、之を兒童の藝術と對立させる。

次に先史と原史との時代の區別も必要である。原史（プロトヒストリック）は正當の歷史的の資料からでなく、傳說や詩歌や口碑などで整理した歷史以前の時代で先史（プレヒストリック）は發堀された考古學的の遺品によつて組織された歷史以前の時代である。そして先史時代は鐵器時代・靑銅器時代・新石器時代・舊石器時代と追々に遡つて行く。

これから、「眞向き」と「橫向き」の問題を更に原始藝術の方面から觀察して見やうと思ふ。

□一人の表現は眞向き　團集の描寫は橫向き

藝術上の主題として、特に構圖や技巧の未だ充分に發達しない原始藝術に於ては、たゞ一人の人物を畫く場合には「眞向き」が適する。之に反して團體卽ち多數の人物の活動、例へば行列とか、競走とか、獵狩や戰爭の光景などを畫く場合には「橫向き」が適する。

一人丈けの人物を畫く場合に、何故に「眞向き」が適するかと云ふ事は、旣に精しく述べた通りである。「眞向き」の唯一の特徵は、看者と一定の精神的交通があると云ふ點に存する。此の交通の種類でもいろ〳〵あるが、原始藝術に於て殊に有力なのは宗敎的の關係である。卽ち神佛や惡魔や祖先の姿は、一般に「眞向き」として描かれる。

畫中の神や人は、吾々の話を聽いてくれる者である。吾々の願を引き受けてくれる者である。時には——八方睨みの描法の場合などには——どの方面からも絕えず吾々を監視して居る者である。

之に反して「橫向き」は、何か動いて居る多數の人物を畫くに適する。前に說いたやうに、「橫向き」の人物は吾々看者を捨てゝ、畫中の第三者を其相

手にする。原始藝術に於て、此の第三者が人間ならば其繪は多く戰爭の活劇を畫いたものであり。第三者が動物ならば其繪は主として獵狩の光景を現はしたものである。

□靜止の近景は眞向き　運動せる遠景は横向き

斯くの如く、畫中の人物が、看者と直接の交渉を有するか、又は畫中の第三者と關係するかに依つて、「眞向き」と「横向き」が分れるのみならず、又、周圍の現象の見物人たる作者の注意が、近くにある個々の人物に向うか、或は遠くの方の全體の團集に向ふかに依つてやはり原始藝術の「眞向き」と「横向き」の別が生ずる。

若し原始藝術家が、餘り動かない一人の人と、精神的の交通をして居る場合には、彼等の視線は其人の顏面に集中する。勿論一人の人との精神的交通は、近い距離に於て成立する。かくして近景を畫いた「眞向き」の人物畫が出來上る。

然るに原始藝術家が、動いてゐる大勢の人を見て居る場合には、一人々々の印象よりも、其全體の人々の位置の變化とか、一々の身體の部分の變化などに作者の注意が集まる。此のやうに人物がごちや〳〵と澤山あつて、看者卽ち作者の凝視點を絶えず變化させるやうな場合には、一人々々の顏よりも其の動いて行く行列の全體が注意を引いて、これが畫中に納められる。勿論全體の行列を見通す爲めには、遠距離から眺めなければならぬかくして遠景を畫いた「横向き」の團集畫が出來上る。

□人間は眞向き　動物は横向き

かう云ふ關係から、精神的の交通を有つて居る人間は多く彼等卽ち原始藝術家に向つて接近して現はれて來るけれども、この交通の乏しい動物は

絶えず彼等の前を通り過ぎて走つて行く。それ故人物は「眞向き」に近くに畫き現はされ、動物は「横向きに遠くに、しかも多くは運動しつゝある一瞬間の光景が巧みに畫かれて居る。

しかし今までに述べたやうな、精神的の交通とか、團集的の運動とか、遠近の關係とかを離れて人間と動物を一つ丈け調べて見ても、其の形態の上から、人は「眞向き」の描法に適し、動物は「横向き」の構圖に適する理由がある。

既に精しく說いたやうに、人間の身體は、「横向き」にすれば、上下に並んだ凹凸關係や、前後に起る運動の姿勢などが、かなり完全に表現される。しかし人體の全般的の、しかも最も重要な特徵と云ふものは、却つて「眞向き」の描寫に依つて明瞭に畫き出される。例へば、頭部では、額が全部、眉が二つ、眼が二つ、頰は兩方、鼻も口も顎も全體が描かれる。又胴を全體、手も二本、脚も二本現はされる

然るに動物の描寫になれば、表現の關係が全く人體と違つて來る。勿論動物にしても、「横向き」では或る特徵を隱す事もある。例へば「横向き」では、耳や角や前脚や後脚などは、どうにかして二つづゝ現はす事も出來るが、眼は一つしか畫く事が出來ない。

しかし動物を「眞向き」に畫いたら、もつと重大な混亂が起つて來る。例へば頭は胴にめり込んで了ひ、胴の長さは全く現はれない。其他前脚は後脚を隱すし、尾は全く見えなくなる。殊に動物に大切な活動の姿勢などは、どうしても現はしやうがない。從つて原始藝術に於て、「眞向き」の動物と云ふものは極めて少ない。いや、たゞに原始藝術のみならず、近代の動物畫家にしても、「眞向き」の名作と云ふものは割合に少ない、やはり多くは横向きを描いて居る。

會告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊　郵稅共金拾參錢　六冊前金郵稅共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園內フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務（寄稿、廣告等）は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正七年二月一日印刷納本
大正七年二月五日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者　倉橋惣三

東京市本所區番場町四番地
印刷者　守岡功

東京市本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內フレーベル會

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
婦人と子ども　第十八卷第二號　大正七年二月一日納本濟
大正七年二月五日發行

日本一の
日本幼年

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附錄を添へます。

本誌は　玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

定價

壹冊拾二錢　□半年郵税共七拾五錢
郵税壹錢　□壹年同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報　婦人畫報
皇族畫報　少女畫報
日本幼年

發行所　東京京橋鍛冶橋外
振替東京四九〇〇　東京社

印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場